
春雨

黒色 紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春雨

【Nコード】

N5112A

【作者名】

黒色 紅

【あらすじ】

二人の女の子が春雨の降る夜、桜を見に行く話です。会話だけで成り立っています。

第一話

「春雨って知ってる？」

「ハルサメ？」

「そう、春雨」

「ヌードルのやつ？」

「いやいや違うから。春に降る雨の事だよ」

「それが？」

「情緒があつていいと思わない？」

「ふーん。そうかもねー」

「なにそのつまんなーいみたいな口調は」

「ああ。ばれた？」

「ばれた」

「はいはい。で、情緒がなんだって？」

「春雨は情緒があるという話し」

「でも雨なんか降ったら桜とか散っちゃっよ」

「そこがまたいいんだよ」

「そんなもんかね」

「うん。そんなもん。でさー」

「何？」

「明日は春雨が降るんだー」

「なんで分かるんだよ」

「私の第6感が言ってるの。でね、春雨の降る明日、私と桜を見に行きませんか」

「まっ、素敵なお誘いだこと」

「ごまかすな。で、行く？つか、来い」

「強制参加になってるや」

「春雨に打たれて桜の花びらが散っていく……。見たいと思わない？」

「強制参加なので何も言うまい」

「じゃあ、明日9時公園前集合ね」

「りょーかい」

「じゃ、あたし次化学室だから……ってやばい!」

「ほーら、チャイム鳴っちゃった」

「化学室遠いの!」

「小久保によろしくね」

「早く行かんと。じゃね!」

第二話

「呼び出しといて遅刻か。いい度胸だな」

「あはははは。ごめん」

「もういいよ。笑いながらもなんでも」

「うそうそ。悪いと思ってるから」

「まあいいけどさ」

「挨拶も済んだところで、早速行こう」

「さっきのは挨拶だったのか」

「じゃあ、こんばんは？」

「なんで疑問系？」

「……懐かしいね」

「懐かしいって去年の事だよ」

「でも、あたしも変わったし、アンタも変わったよ」

「そうかなあ」

「でも此処は変わってないよね」

「此処は変わってないね」

「ああ、傘さすのめんどくさ」

「アンタが春雨がいいとか言ってたんだろが」

「あははは。まあね。あー桜散ってる。綺麗だね」

「うん」

「去年も春雨降ってたよね」

「うん。アンタが去年も春雨の降る日に行きたいと言ってたからね」

「そうだったっけ？去年も綺麗だったよね」

「うん」

「来年も来ようね」

「……うん」

「あたしと、だからね」

「……ワガママ」

「他の人と来ちゃダメだからね」

「はいはい。分かってるよ。アンタもね」

「任せといて」

「それにしても、すごい量の花びら」

「これ、どうするんだろ」

「捨てるんじゃないね」

「勿体ないね」

「土に還るよ、たぶん」

「そろそろ帰る？」

「えー。もう？」

「うん。寒くなって来たし、もう1時間ぐらいいるよ」

「……ほんとだ。最後に写メでも撮ろ」

「いいよ」

「いいー？・・・はい、キムチ」

「キムチ」

「後で送つとくね」

「ん」

「じゃあ月曜にねー」

「んー、バイバイ」

「遅刻すんなよー」

「あーい」

「忘れないよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5112a/>

春雨

2010年12月30日09時59分発行